

## 社会的ルールの知識構造測定マニュアル

吉澤 寛之<sup>1)</sup> 吉田 俊和

### 社会的ルールの知識構造

近年、少年によるセンセーショナルかつ凶悪な犯罪が、マスメディアを通して盛んに報道されるようになった。日本における2003年8月現在の少年非行の特徴として、刑法犯少年の検挙人員は減少しているものの、凶悪犯が増加し、粗暴犯も依然として高水準で推移するなど、非行の凶悪化・粗暴化の状況が報告されている(警察庁生活安全局少年課, 2003)。さらに遠山(1994)は、現代の非行の低年齢化を説明する上で、犯罪に至る個人の心理的な必然性が先行して、社会的な意味づけが欠落し、犯罪の非社会的な傾向が強まっていることを指摘している。こうした非行の凶悪化・粗暴化及び非社会化の背景には、現代社会の複雑化に伴い、少年が自らの行動の社会的影響を正確に把握することが困難な現状が存在する。他者に与える影響を推測することの困難さゆえに、自らが有する独特の論理に基づき行動の正当化が助長されているものと考えられる。

筆者らは、こうした非行・問題行動を正当化する論理を導く社会的情報処理の中核として、個人が社会的な生活全般を円滑に営むために用いる社会的ルールの知識構造に注目し、その知識構造を測定する手法をこれまで開発してきた(吉澤・吉田, 2002, 2003a, 2003b)。また、測定された社会的ルールの知識構造が社会的逸脱行為傾向を予測する上で有効であることも示されている。しかしその一方で、それらの先行研究において報告されている測定法の手続きに関しては、その複雑さゆえに詳細な解説がなされているとはいえない。さらに、測定法に関する理論的背景についても、これまで十分な説明がなされていなかった。従って本論文では、先行研究において開発されてきた社会的ルールの知識構造測定法のマニュアルとしての位置づけの下に、測定法における手続きとその理論的背景に関する詳細な解説を行う。

### 社会的情報に関する知識構造

本論文では、個人が過去に経験した対人葛藤状況に対し、それらの状況に適用した社会的ルールを社会的出来事に関する知識構造の測定指標とする。社会的行動において社会的ルールが果たす役割の重要性は、Argyle & Henderson (1985)により示唆されている。社会的ルールは、個人の外側に存在し、外側から個人の認知や行動を規定するものであり、個人の内側にある社会的スキーマの中に「内在化された社会的ルール」または「個人的ルール」として組み込まれるとしている。葛藤状況に対処するために適用した社会的ルールは、個人が過去経験を通じて内在化した社会的情報に関する知識構造を反映するものと考えられる。

また、社会的ルールは、個人が広範な社会的生活を円滑に営むために有している認識の枠組みとして捉えることも可能であり、それらの生活を営む上で「こうあるべきである」と考えている個人特有の論理を反映していると考えられる。社会的ルールに類似した他の概念としては社会的スキルや葛藤処理方略などが想定されるが、これらの概念は主に行動レベルでの直接的な対人的相互作用を対象としており、社会的情報に関する論理構造を検討するものではない。社会的ルールについては、より広範な社会環境の認識を捉えることが可能であるという意味で、非行・問題行動を正当化する論理を把握しようとする本論文の目的に則した概念であるといえよう。また、本論文では社会的ルールを適用する場面として対人葛藤状況を対象としている。対人葛藤状況においては場面の緊張度の高さから個人が有する社会的ルールを積極的に活用する必要性が高くなり、それら社会的ルールの知識構造へのアクセシビリティが高いものと想定されるため、社会的ルールを測定する場面として望ましい状況であるといえる。

さらに本論文では、社会的ルールの知識構造の測定にあたり、その構造的側面に注目する。社会的情報を体制化し、それらの情報を知識として構造化する個人差に注目した研究領域としては、思考の構造を対象とする認知

1) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)

スタイル研究があげられる。Suedfeld & Tetlock (2001) では認知スタイルに関する先行研究を概観し、代表的な理論として認知欲求 (need for cognition: e.g., Cacioppo & Petty, 1982), 概念的・統合的複雑性 (conceptual/integrative complexity: e.g., Bieri, 1955; Streufert & Streufert, 1978), 認知的閉鎖欲求 (need for closure: e.g., Kruglanski & Webster, 1996) の3つをあげている。これらの認知スタイル概念のなかでも、概念的・統合的複雑性は状況的要因との相互作用から導かれる概念であるとされており、その理論的背景は本論文における知識構造の測定法と一致する。すなわち本論文では社会的ルールの知識構造を、ルールを状況に対して適用している状態から指標の測定を行っているが、この測定法はまさに個人が有する社会的知識としての社会的ルールと状況との相互作用を基に個人の有する概念 (社会的ルール) の構造を捉えようとするものである。

また、本論文では社会的ルールを概念的・統合的複雑性研究において従来から用いられているグリッド・テクニック (grid technique: 以下 GT と略す) により測定するが、主にこの手法は対人認知の領域において用いられている。従って、社会的ルールの知識構造を測定する上で GT を用いることが適切かという問題が当然生じることとなるが、近年の研究においては、対象を人物から状況に置き換えた測定方法など (Krahe, 1990), 従来からの対人・対物認知に限定されない多様な領域で GT が用いられている。さらに、概念的・統合的複雑性研究の理論的根幹を成す Kelly (1955) のパーソナル・コンストラクト理論においては、個人が有する社会的情報に関する構成概念は人物表象に留まらず、多様な側面を考慮すべきであるとされている。そもそも、Kelly において述べられている社会的情報の表象は個人特有の構成概念全般のありようであり、対人認知研究での GT による測定では個人の構成概念における1領域を把握するための一つの手法として、形容詞対を用い人物を評定させているに過ぎない。本論文においても同様に、社会的ルールに関して個人が有する構成概念を測定することを目的としており、こうした観点からは測定対象が人物ではなく、社会的ルールであることに問題があるとは考えられない。

さらに、本論文では知識構造の構造的側面を捉えるための理論的背景として、坂元 (1988) による分化・統合の視点を採用する。概念的・統合的複雑性研究においては、同様の理論的背景の下に多様な側面からその構造を捉える試みがなされているが (e.g., 坂元, 1988; Streufert & Streufert, 1978), そのなかでも坂元は先

行研究において用いられている測定指標を総括した上で「分化」と「統合」の2側面から捉えなおす視点が有効であると主張している。坂元では、環境を多次的に表象することを「分化」、判断時にその多次的な情報を1次的な情報に統合することを「統合」と定義している。本論文では、知識構造における構造的側面の指標として、これらの2側面を概念的枠組みとして採用する。

本論文においては、「分化」を知識構造における各構成要素 (本論文では社会的ルール) の相互独立性の程度とし、「統合」を各構成要素の概念的な上位レベルにおける結合の程度として捉える。「分化」の指標は、個人が有する社会的ルールどうしの相互独立性を数値化する目的で、葛藤状況に社会的ルールを適用する際のルール間の相関係数を基に算出される (以下ルール独立性と略す)。「統合」の指標は、上位レベルでの結合の程度、すなわち個人内での概念的優先度を数値化する目的で、葛藤状況に社会的ルールを適用する際の一貫性として標準偏差を基に算出される (以下ルール一貫性と略す)。

さらに、本論文では上記2つの構造的側面に関する指標に加えて、質的側面の指標として社会的ルールの一般的適切性を測定する。知識構造の質的側面の重要性は、社会的情報処理アプローチによる研究において指摘されている (e.g., Crick & Dodge, 1994)。仲間集団から拒絶を受ける子どもは、特定の社会的状況への反応を選択する際のレパトリーの数 (構造的側面) が限定されていることが示されているが (Pettit, Dodge, & Brown, 1988), 行動のレパトリーの内容 (質的側面) が主に適応的な反応から成る場合は、こうした限定は深刻な問題とならないことが示唆されている。こうした指摘を踏まえ、知識構造を検討する際には、その質的側面である社会的適切性が考慮されるべきである。従って本論文では社会的ルールの適切性として、あらかじめ一般的な適切性が評価された項目から成る選択式社会的ルールリストを提示し、被調査者が葛藤状況に用いたルールとしてそのリストから選択したルール項目を基にルール適切性を指標化する。本論文では、社会的ルールの知識構造を構造的側面としてルール独立性及びルール一貫性、さらに質的側面としてルール適切性の以上3指標の数値化を行う。

## 社会的ルール知識構造測定法の概要

本論文では、社会的ルールの知識構造を構造的側面の2指標 (独立性・一貫性) と質的側面の指標 (適切性) から測定するための方法を次節以降に解説する。解説にあたり、以下の順番にて詳細の説明を行う。

1. 選択式社会的ルールリストの作成: 本論文では、社

会的ルール of 質的側面であるルール適切性を指標化するために、あらかじめ適切性得点がリスト項目に付与されている選択式社会的ルールリストを提示し、被調査者に自らが経験した葛藤状況に適用した社会的ルールに最も近い項目の選択を求め、その項目の適切性得点の平均値を算出する。それに先立ち、本節では選択式社会的ルールリストがどのように作成されたかについて解説する。

2. 社会的ルールの知識構造測定法：本論文では、社会的ルールの知識構造における構造的側面を GT を採用した方法により測定し、質的側面は前述した方法により測定する。本節では、それらの2つの測定法に関する詳細を解説する。

3. 社会的ルールの知識構造簡易版測定法：上記の知識構造測定法においては、被調査者の回答における負担が認められたため、より簡便な測定を可能にするため簡易版の測定法を開発した。上述の測定法においては被調査者に自らが有する社会的ルールの生成を求めているが、簡易版ではその手続きをなくし、あらかじめ被調査者に社会的ルールを提示することにより簡易化を行った。本節では、上記の測定法との差異を中心として、簡易版測定法に関する詳細を解説する。

4. 社会的ルールの知識構造指標の算出：以上の知識構造測定法及び簡易版知識構造測定法により測定された値を基に、本節では各知識構造指標がどのように数値化されるかを解説する。なお、指標の数値化については、知識構造測定法及び簡易版知識構造測定法において同様の手続きが用いられている。

## 選択式社会的ルールリストの作成

本節では、社会的ルールの知識構造の質的側面であるルール適切性の指標化の際に用いる選択式社会的ルールリストを作成する目的で実施した研究を報告する。実際の手続きでは、自由記述法による社会的ルールの収集と分類により社会的ルールリストを作成し、そのリストに対して一般的な適切性評価を求め、項目分析した結果から選択式社会的ルールリストを作成した。

### 1. 社会的ルールの収集

一般的な対人場面や社会的場面において用いる社会的ルールの収集を実施する。社会的ルールの収集は、青年期における対人関係を広く網羅するために、友人や知人との関係、家族との関係、より広い社会的な場面の3領域について、それらの状況で用いる社会的ルールの記述を求めることにより実施する。

#### 方法

質問紙の構成 社会的ルールは人が他者や社会と上手

くやっていくために最低限行うべきルールとして、友人・知人との関係で用いる社会的ルール（以下友人ルールと略す）、家族との関係で用いる社会的ルール（以下家族ルールと略す）、より広い社会との関係で用いる社会的ルール（以下社会ルールと略す）の3領域ごとに記述を求めた。その際、社会的ルールは要点をわかりやすく、簡潔に、簡条書きで記すように指示した。さらに、各社会的ルールについて、それらの社会的ルールがどのように役立っているのかを簡条書きではなく、なるべく詳しく説明するように指示した。社会的ルールの記入欄には、各領域に対し10のルールを記入できるように欄を設けた。社会的ルール3領域の記入欄提示順は、カウンターバランスされた。その際、社会ルールと他の2領域における比較的身近な他者との関係の中で用いるルールとを区別する目的で、常に社会ルールが最後に記入されるよう提示された。

調査対象と手続き A 県内の複数の大学及び短期大学の学生190名を対象に実施された（男性：56名、女性：133名、不明：1名；平均年齢=19.98,  $SD=2.62$ ）。調査は講義の一部を利用して、無記名方式で実施された。社会的ルール記入用紙を配布され、記入の際には各領域について約10分の時間を設け、順番に3領域の社会的ルールを記入するよう求めた。早く記入できたものには、次の用紙に進むよう促したため、時間の設定は厳密ではなかった。被調査者は回答方法に関する指示を受けた後、回答を実施した。実施時間は約30分であった。回答終了後デブリーフィングを行い、用紙を回収した。

#### 結果と考察

社会的ルールの収集は全被調査者が記述した内容を分析の対象とした。社会的ルール収集数の合計、平均値、標準偏差をTable 1に示した。被調査者が記述した社会的ルール3領域間における記述数の差を検討するため、ルール数の分布において正規性が棄却されたことを考慮し、友人ルール、家族ルール、社会ルールにおけるルール数の比較を、Friedmanの $\chi^2$ 検定により行った。その結果、ルール3領域間の差は有意であることが示された（ $\chi^2=28.78$ ,  $p<.001$ ）。さらに、被調査者が記述したルール数の性差を検討するため、性差（男性、女性）2水準を独立変数とし、全ルール数、友人ルール数、家族ルール数、社会ルール数それぞれを従属変数としたMann-WhitneyのU検定を行った。検定の結果、全ての従属変数に対し性差の効果が有意もしくは有意傾向であり（順に  $Z=-3.29$ ,  $p<.002$ ;  $Z=-2.92$ ,  $p<.004$ ;  $Z=-3.69$ ,  $p<.001$ ;  $Z=-1.76$ ,  $p<.08$ ）全ての従属変数において男性よりも女性の方がルール数を多くあげていることが示された。

Table 1 ルール数の平均値と標準偏差

	N	全ルール			友人ルール			家族ルール			社会ルール		
		Total	M	(SD)	Total	M	(SD)	Total	M	(SD)	Total	M	(SD)
全被調査者	190	1557	8.19	5.25	595	3.13	2.20	496	2.61	1.80	466	2.45	1.89
男性	56	395	7.05	6.19	147	2.63	2.32	123	2.20	2.19	125	2.23	2.04
女性	133	1162	8.74	4.71	448	3.37	2.10	373	2.80	1.58	341	2.56	1.81

note) 性別不明者が存在したため男女の被調査者数の合計と全被調査者数は一致しない。

記述された社会的ルール数に3領域間の差と男女差が認められことは、今後考慮すべきことであると考えられた。従って、社会的ルールの分類では、領域及び男女ごとに個別に分類を実施し、区分ごとに社会的ルールリストを作成する。

## 2. 社会的ルールの分類

収集された社会的ルールを、KJ法を参考とした方法により分類する。さらに、分類された社会的ルールに対しカテゴリー名を命名し、そのカテゴリー名に基づき社会的ルールリストを作成する。ここで作成された社会的ルールリストは、後述する項目分析の結果から選択式社会的ルールリストを作成する際に用いられる。

### 方法

**社会的ルールの分類** 被調査者が記述したルール数に性差と3領域間の差が認められたため、全ルールをその役立ち方と対し、性別2×領域3の6つのサブグループに分類した。それぞれのサブグループに対しKJ法を参考とした分類を実施し、各社会的ルールの上位概念としてのルールカテゴリーの抽出を行った。分類は第1筆者と心理学専攻の大学院生2名（以下分類者と略す）の合計3名により実施された。分類は、同室に3名が集まり第1筆者の説明を受けた後、それぞれ個別に行った。分類の際に、意見に相違が生じた場合は相談により調整された。

分類基準は、以下の7点を指示した。(a)基本姿勢として、より多くのルールカテゴリーを網羅するリストを作る。(b)あまりに分類が細分化されるような場合は、1つのサブグループにおける最大のカテゴリー数をおおよそ30までとする。(c)あいまいな記述、不真面目な内容の記述は、分類対象から除外し、残余ルールとしてまとめる。(d)ルールの役立ち方に重点を置き上位概念を基に分類する。(e)ルールの上位概念が複数認められる場合は、より本質的な内容と考えられる概念を基に分類する。(f)複数概念の本質性が同程度である場合は、最初に記述された内容の概念を基に分類する。(g)ルールの役立ち方についての記述がない場合は、ルール記述を基に分類する。

さらに、分類により抽出された各ルールカテゴリーに

対し、適当なカテゴリー名が3名個別に命名された。命名の際の基準として、以下の4点を指示した。(a)分類された抽象的なルールカテゴリーごとに、適当なカテゴリー名を3人それぞれが命名する。(b)各6領域のルール分類を実施し終えた後に、毎回3人が名付けたカテゴリー名について照合し、各カテゴリー名を一致させる。(c)基本的に分類者3名の話し合いにより一致させるが、一致させることが困難な場合は、第1著者が命名したカテゴリー名を参考に調整する。(d)カテゴリーの命名について不明な点がある場合は、Tesson, Lewko, & Bigelow (1987)により作成された社会的ルールのメタカテゴリー・リストを参考にする（「第1著者」があらかじめ準備）。ここで、Tesson et al.によるメタカテゴリー・リストとは、子どもが対人関係において用いる社会的ルールを構造化面接により抽出し、得られたルールをメタカテゴリーに基づき分類したものである。

**社会的ルールの整理と項目リストの作成** 分類者により抽出されたルールカテゴリーの整理は、第1著者により行われた。まず、6つのサブグループごとに、3名の間でルールカテゴリー名が重複しているもの、及び残余ルールを除外し、意味的に類似していると思われるものは第1著者の命名に従いカテゴリーリストを作成した。さらに、サブグループにおいて、内容的な男女差はあるもののほぼ重複している内容が多く認められたため、男女のサブグループを合わせ、ルール領域（友人、家族、社会）により分類した3つのサブグループのカテゴリーリストを作成した。こうして作成されたカテゴリーリストは、「第1著者」により質問紙用の項目に改定されることにより、社会的ルールリストが作成された。

### 結果と考察

カテゴリーの内容については、ほぼ類似したものを各分類者があげており、上記の整理方法で問題がないと考えられた。さらに、質問紙用の項目として作成された社会的ルールリストをAppendixに示した。なお、Appendixの各リスト項目に付与されている得点は、後述する項目分析における男女別の適切性得点の平均値及び標準偏差に対応する。作成された社会的ルールリストの項目数は、友人ルール75項目、家族ルール71項目、社会

ルール70項目であった。

### 3. 社会的ルールリストの項目分析

選択式社会的ルールリストを構成する項目を選別するため、社会的ルールリストの項目分析を実施する。なお後述する質的側面としてのルール適切性を指標化する際には、本分析の結果得られた適切性得点の男女別平均値を用いる。

#### 方 法

**質問紙の構成** 社会的ルールリスト項目に対し、一般的にそれらのルールがどのくらい適切であるかを、「1. まったく適切でない」から「5. 非常に適切である」までの5段階評定で回答を求めた。各調査の実施可能時間に応じた量の質問紙（3領域分もしくは2領域分）を作成し、各領域の提示順は社会的ルールの収集と同様の方法でカウンターバランスされた。

**調査対象と手続き** A 県内の複数学校（大学、短期大学、専門学校）の学生337名を対象に実施された（男性：183名、女性：145名、不明：9名；平均年齢=20.17、SD=3.03）。調査は講義の一部を利用して、無記名方式

で実施された。被調査者にはそれぞれ、調査時間に応じた質問紙がランダムに配布された。被調査者は回答方法に関する指示を受けた後、回答を実施した。3領域分の回答を求めた調査の実施時間は約40分であり、2領域分の回答を求めた調査の実施時間は約20分であった。回答終了後にデブリーフィングを行い、用紙を回収した。

#### 結果と考察

回答した全ての被調査者のデータが分析に用いられた。各項目の適切性得点における性差の全般的な効果を検討するため、性差（男性、女性）2水準を独立変数とし、友人ルール全項目、家族ルール全項目、社会ルール全項目それぞれを従属変数とした1要因の多変量分散分析を行った。分析の結果、友人ルール、家族ルール、社会ルールの全てにおいて、性差の主効果が認められた（順に  $F(75,156)=2.19, p<.001$ ;  $F(71,162)=1.51, p<.02$ ;  $F(70,173)=1.74, p<.003$ ）。

さらに、選択式社会的ルールリストを作成するため、リスト項目の独立した因子を抽出する目的で、社会的ルールリストの各リスト項目について領域別に因子分析（主成分分解、Varimax回転）を行った。因子構造の確認後

Table 2 選択式社会的ルールリスト（友人ルール）

リスト番号	領域別 項目番号	男性用		女性用		ルール項目
		適切性得点 M	(SD)	適切性得点 M	(SD)	
1	1	3.88	(0.72)	3.99	(0.57)	場を和ませる努力をする
2	4	4.28	(0.74)	4.43	(0.57)	相手との信頼のある関係をつくる
3	7	3.94	(0.74)	4.05	(0.69)	許すべきことは許す
4	10	4.31	(0.75)	4.48	(0.64)	自分が悪い時はあやまる
5	12	3.54	(0.84)	3.75	(0.73)	何か相手にしてもらったらお返しをする
6	13	3.06	(0.99)	3.13	(1.02)	自分の感情をおさえる
7	15	4.15	(0.76)	4.36	(0.71)	プライベートな問題やプライバシーを守る
8	16	3.03	(0.99)	3.46	(0.91)	相手のことを否定しない
9	22	3.01	(0.89)	3.20	(0.93)	相手への敵意を隠す
10	23	3.73	(0.77)	3.64	(0.77)	共通の話題を持つようにする
11	29	3.15	(0.88)	3.55	(0.71)	相手に干渉しない
12	31	2.54	(0.88)	2.46	(0.87)	相手が助けてくれることを期待する
13	35	3.76	(0.84)	3.84	(0.75)	互いの意見や考えを調整する
14	47	2.95	(0.90)	3.13	(0.96)	相手の考えや意見にあわせる
15	54	3.87	(0.81)	4.14	(0.66)	相手が不快になることをしない
16	55	3.34	(0.84)	3.29	(0.84)	自分の意見をストレートに伝える
17	64	3.89	(0.75)	4.04	(0.67)	誠実に接する
18	66	3.76	(0.81)	4.12	(0.70)	相手に迷惑をかけない
19	69	3.95	(0.74)	4.21	(0.69)	相手とコミュニケーションをとる努力をする
20	73	3.22	(0.94)	3.36	(0.85)	自分のことを相手にさらけ出す

note) 領域別項目番号は Appendix の項目番号に対応している。

に Guttman ルールを採用し、友人ルールに18因子（固有値の減衰状況：16.94, 6.51, 3.78, 2.60……；回転後の累積寄与率：65.76%）、家族ルールに16因子（固有値の減衰状況：18.93, 4.41, 3.29, 2.70……；回転後の累積寄与率：65.42%）、社会ルールに17因子を採用した（固有値の減衰状況：19.90, 3.65, 3.36, 2.54……；回転後の累積寄与率：67.39%）。領域ごとの、各因子を構成する項目における男女別の適切性得点平均値及び標準偏差と負荷量を Appendix に示した。なお、前分析において項目全体の適切性得点に男女差が認められたため、男女別に因子分析をするのが本来妥当である。しかし、男女別に分析することにより、抽出される因子に対してサンプル数が不足すると考えられたため、男女を込みにして分析を実施したことに留意していただきたい。

次に、抽出された各因子を基に、以下の4つの基準から領域ごとに選択式社会的ルールリストを構成する項目を選択した。項目の選択は、著者ら2名で実施した。意見に相違が生じた場合は相談により調整された。選択の基準は、(a)項目の意味が該当する因子を代表していること、(b)項目の意味が他の因子に属する項目の意味と類似

していないこと、(c)項目が他の因子へ高く負荷していないこと、(d)項目が特定の状況において用いる社会的ルールに限定されていないことの4つを採用した。以上の手続きにより、各領域それぞれ20項目ずつから成る選択式社会的ルールリストが作成された（Table 2 から Table 4 を参照）。作成された選択式社会的ルールリストは、知識構造のルール適切性を指標化する際に用いられる。なお、選択式社会的ルールリストの一部の項目は、社会的ルールリストから変更されている。

また補足的に、選択式社会的ルールリストの項目における適切性得点の性差を検討するため、性差（男性、女性）2水準を独立変数とし、友人ルール全項目、家族ルール全項目、社会ルール全項目それぞれを従属変数とした1要因の多変量分散分析を行った。その結果、友人ルール、家族ルール、社会ルールの全てにおいて、性差の主効果が認められた（順に  $F(20,220)=2.15, p<.004$ ;  $F(20,224)=2.73, p<.001$ ;  $F(20,226)=1.76, p<.03$ ）。以上の分析から、選択式社会的ルールリストの適切性得点には男女差を考慮すべきであると考えられたため、知識構造のルール適切性を指標化する際には男女別の適切

Table 3 選択式社会的ルールリスト（家族ルール）

リスト番号	領域別 項目番号	男性用		女性用		ルール項目
		適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )	
21	1	2.78	(0.99)	3.11	(0.90)	家族から助けられることを期待する
22	10	3.96	(0.91)	4.23	(0.75)	自分の考えや意見を伝える
23	15	3.69	(0.94)	3.91	(0.87)	家族に心配をかけない
24	24	3.70	(0.91)	3.91	(0.91)	互いに気をつかわない関係をつくる
25	25	3.92	(0.74)	3.85	(0.96)	家族内での決まりごとを守る
26	26	3.66	(0.88)	3.61	(0.94)	他の家族と自分の家族を比較しない
27	28	2.83	(0.98)	3.05	(0.88)	隠しごとをしない
28	29	3.88	(0.77)	4.06	(0.79)	家族のことを助ける
29	32	3.62	(0.86)	3.71	(0.96)	家族内での仕事や役割を分担する
30	38	3.83	(0.73)	3.78	(0.89)	自分勝手にはならない
31	40	3.41	(0.84)	3.21	(0.89)	互いに損になることは避ける
32	44	2.99	(0.95)	3.16	(0.84)	自分のことをさらけ出す
33	46	3.99	(0.74)	4.19	(0.71)	家族のことを思いやる
34	48	3.01	(1.00)	3.41	(0.93)	家族と一定の距離を保つ
35	49	3.71	(0.78)	3.59	(0.82)	必要以上に助けすぎない
36	53	2.76	(0.96)	2.75	(0.89)	自分の感情をおさえる
37	55	3.82	(0.82)	4.04	(0.63)	お互いのことを理解する
38	57	3.23	(0.93)	3.59	(0.94)	互いに頼りあう
39	64	3.96	(0.71)	4.07	(0.71)	家族の意見を聞く
40	70	4.21	(0.80)	4.38	(0.73)	自分が悪い時はあやまる

note) 領域別項目番号は Appendix の項目番号に対応している。

Table 4 選択式社会的ルールリスト (社会ルール)

リスト番号	領域別 項目番号	男性用		女性用		ルール項目
		適切性得点 M	(SD)	適切性得点 M	(SD)	
41	2	4.09	(0.69)	4.23	(0.57)	他者とのコミュニケーションを心がける
42	8	3.67	(0.86)	3.66	(0.71)	社会にとって不利益になるようなことをしない
43	17	4.03	(0.75)	4.03	(0.75)	自分の感情をコントロールする
44	20	3.45	(0.89)	3.06	(0.92)	正しくない行いに対して罰を加える
45	21	3.70	(0.80)	3.85	(0.77)	社会的に孤立することを避ける
46	22	3.67	(0.84)	3.82	(0.77)	社会的な弱者などを助ける
47	23	2.85	(0.89)	2.59	(0.84)	他者に恩を売る
48	24	3.87	(0.72)	3.99	(0.67)	自分の行動について反省するよう心がける
49	25	3.69	(0.86)	3.61	(0.92)	場合によってはウソを利用する
50	26	3.40	(0.97)	3.31	(0.91)	自分が言いたいことは言う
51	28	3.83	(0.81)	3.80	(0.75)	公私混同しない
52	33	4.26	(0.75)	4.47	(0.60)	自分が悪い事をしたらあやまる
53	36	3.92	(0.78)	4.18	(0.58)	他者と譲り合いの気持ちを持つ
54	38	2.84	(0.90)	2.91	(0.90)	自分のことを他者にさらけ出す
55	46	2.54	(0.94)	2.68	(0.93)	他者から助けられることを期待する
56	47	3.92	(0.73)	3.88	(0.71)	他者のことを考えながら行動する
57	51	3.22	(0.86)	3.13	(0.78)	他者を警戒する
58	64	3.39	(0.94)	3.38	(0.84)	周囲にあわせる
59	68	3.93	(0.74)	3.96	(0.65)	社会における自分の役割をはたす
60	69	4.07	(0.78)	4.24	(0.63)	目上の人などに敬意をあらわす

note) 領域別項目番号は Appendix の項目番号に対応している。

性得点平均値を用いる。

### 社会的ルールの知識構造測定法

本節では、社会的ルールの知識構造測定法に関して、その測定法の具体的かつ詳細な解説を行う。大まかな測定の流れとしては、まず社会的ルールの知識構造を測定するための状況サンプルとして、個人が過去に経験した葛藤状況の記述を求める。さらに、記述された葛藤状況に対して用いた社会的ルールの作成を求め、再度葛藤状況に対してそれらのルールをどのように用いたかといった適用の様態から知識構造の構造的側面として、ルール独立性及びルール一貫性が測定される。また、質的側面としてのルール適切性については、記述された葛藤状況において用いた社会的ルールに最も近い項目を選択式社会的ルールリストから選択するよう求めることにより測定される。

#### 1. 葛藤状況の記述

社会的ルールの知識構造を測定するための状況サン

プルとして、本測定法では過去に経験した葛藤状況の記述を求める。具体的には、ある種の葛藤を経験した状況や、今でも葛藤を経験している状況として、友人・知人との葛藤状況、家族との葛藤状況、社会的な場面での葛藤状況（プライベート以外の公的場面として説明）の3領域ごとに、よく覚えている3つの状況を記述するよう求める。また3状況の記述の際には、Ohbuchi & Kitanaka (1991) による葛藤状況の分類を参考として「同意」、「好意期待」、「援助」に関する3種類の状況の記述を求める（計9状況）。3領域の葛藤状況の記入順序は、カウンターバランスされている。

記述を求めた状況数に関しては、状況サンプルを多く得る必要性と被調査者への負担の双方を考慮し、全9状況が適切だと考えられる。Ohbuchi & Kitanaka (1991) による葛藤状況の分類に対応した状況の記述を求めた理由としては、著者らの先行研究（吉澤・吉田, 2002）において葛藤状況の分類を提示しない手続きを用いた際に、被調査者が葛藤状況を想起し記述することの困難を報告していたことがあげられる。また、分類を提

### <2. 葛藤状況の関係評定>

〔社会的ルールの回答例：下記の社会的ルール記入例を参考にしてください〕

1. ○で選択された3つの葛藤状況が右欄の例1、例2、例3だとします。
2. この3つの葛藤状況の中で、例1と例2の状況に対処しようとして「相手との関係を考慮する」という社会的ルールを共通に用いたとします（□で囲まれている2状況）
3. その場合、この「相手との関係を考慮する」というルールを、共通ルールの所に記入します。
4. 次に、このルールとおおむね反対の意味であると考えられる「相手との関係を気にしない」というルールを対比ルールの所に記入します。

〔注意〕同じルールを書かないようにしてください。

以上が社会的ルールを回答する時の1例としてあげられますが、ここで例1、例2、例3、のなかで、例1と例3に対処しようとして「自分の意見を主張する」（対比ルール：「自分の意見を抑える」）という社会的ルールを共通に用いた場合が考えられます。このように、おなじ3つの状況でも2つの共通したルールを用いた状況の選択の仕方や、共通して用いるルールには違いが生じます。例を参考に、あなたの考える社会的ルールを自由に記入してください。

	共通ルール例			対比ルール例		
〔社会的ルール記入例〕	例1	例2	例3	例1	例2	例3
例1				1. 相手との関係を考慮する※		相手との関係を気にしない※
例2				2. 自分の意見を主張する※		自分の意見を抑える※
①	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
②	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
③	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
④	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑤	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑥	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑦	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑧	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑨	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
1.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
2.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
3.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
4.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
5.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
6.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
7.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
8.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

社会的ルール記入欄（同じルールは書かないで下さい）

↓

対比ルール欄

### <1. 葛藤状況の記入> 注意：こちらから先に記入してください！

☆葛藤状況の例

例1	＜合意の葛藤＞	他の人と一緒に見に行く映画が決まっていたが、別の映画が見たくなくなった。
例2	＜好意の葛藤＞	相手との関係が悪くなっていたが、ふたたび関係を良くしたかった。
例3	＜援助の葛藤＞	他の人から自分が忙しいときに、仕事を頼まれた。

#### I) 友人・知人との葛藤を経験した状況

①	友人・知人との合意の葛藤状況	
②	友人・知人との好意の葛藤状況	
③	友人・知人との援助の葛藤状況	

#### II) 家族との葛藤を経験した状況

④	家族との合意の葛藤状況	
⑤	家族との好意の葛藤状況	
⑥	家族との援助の葛藤状況	

#### III) より社会的な場面で葛藤を経験した状況

⑦	社会的場面での合意の葛藤状況	
⑧	社会的場面での好意の葛藤状況	
⑨	社会的場面での援助の葛藤状況	

Figure 1 社会的ルールの知識構造測定用調査用紙の一部



示さないことで類似した葛藤状況を被調査者が記述し、多様な状況の記述がなされないことにより、後述する社会的ルールへの作成手続きに問題が生じることを避ける意味もある。被調査者に提示した葛藤状況の分類に則した記入例は、Figure 1の「1. 葛藤状況の記入」欄に示されている。なお Figure 1は、吉澤・吉田（2003a）の調査の実施時に実際に用いた調査用紙の一部である。

## 2. 社会的ルール対の作成

社会的ルールの知識構造における構造的側面（ルール独立性・ルール一貫性）の2指標を測定するための尺度として、社会的ルールのルール対の作成を求める。本測定法においてはGTを援用し、対人認知における認知的複雑性研究で用いられているGTの形容詞対に対応するものとして、社会的ルールの対の作成を求める。なお、対人認知研究のGTを用いた測定法では、形容詞対による評価対象として人物が用いられているが、本測定法ではその人物が葛藤状況に対応することに注意していただきたい。

社会的ルール対は、全状況を包括的に捉え、状況に適用した社会的ルールという観点から被調査者により作成される。具体的には、あらかじめ無作為に指定された3状況を被調査者がセットとして考え、3状況の中で2状況に共通して用い、残りの1状況には用いないと考える重要なルールとして、共通ルールの記述を求める。次に、共通ルールの反意であると被調査者が考えるルールを対比ルールとし、共通ルールと対比ルールとを対にした1ルール対の作成を求める。これらの作業が、あらかじめ指定された8状況セットに対して行われることにより、8ルール対が作成される。

このような複雑な手続きを用いる理由としては、個人が有する社会的ルールに関する潜在的な知識構造を捉えるため、あらかじめ社会的ルール対を与えるのではなく、被調査者自身に社会的ルールの作成を求める必要性があったためである。また、3状況をセットとして相互比較させる理由としては、単純に社会的ルールを記述させるのみでは、紋切り型のルールや概念的に類似したルールが多くなるという問題が考えられたためである。なお上記の方法は、個人が有する概念を抽出する方法としてKelly（1955）が提唱したものであり、本測定法では社会的ルールの作成を求める手続きとして採用している。社会的ルール対の作成時に用いる回答欄は、Figure 1の「2. 葛藤状況の関係評価」の部分に該当している。

## 3. ルール対による状況評価

本測定法では、個人が有する社会的ルールを状況に對

して適用する様態を基に、社会的ルールの知識構造における構造的側面を測定する。社会的ルールを状況に対して適用する様態は、作成された社会的ルール対を尺度として用い、記述した葛藤状況で用いたルールという観点から状況の評価を求めることによって測定される。具体的には、まず作成された社会的ルールの8ルール対を順不同でカードに転写した後に、各状況のタイトルが記された用紙の指定場所にそのカードを置く。次にカードに記されたルール対を用い、その状況に適用したルールは、対の両端のどちらに近いかという基準で、「2. よく当てはまる」「1. やや当てはまる」「0. どちらでもない」「1. やや当てはまる」「2. よく当てはまる」の対称となった5段階評価で回答を求める。状況評価は、社会的ルール対を転写したカードを用い、葛藤状況が記入された順序と同順で各状況に対応する用紙全て（9状況分）への回答を求める。なお、GTを用いた評価における評価点数に関しては、山口・久野（1994）が適当な情報処理量にみあう値として4件法もしくは5件法が望ましいとしている。従って、本測定法では社会的ルールという概念の抽象性を考慮し、中央点を設けないことによる回答の困難をなくすため、5件法を採用している。

以上の手続きにより評価された値は、後述する知識構造指標の算出のため変換がなされる。値の変換は、共通ルールに「2. よく当てはまる」として回答された値を1、共通ルールに「1. やや当てはまる」として回答された値を2、「0. どちらでもない」として回答された値は3、対比ルールに「1. やや当てはまる」として回答された値を4、対比ルールに「2. よく当てはまる」として回答された値を5に変換する。こうした値の変換を経て、最終的に8つのルール対により9葛藤状況を評価した72（8×9）の値からなるデータ行列が得られる。このデータ行列を基に、後述する知識構造の構造的側面2指標が個人ごとに算出される。データ行列の例を、Figure 2に示した。なお、Figure 2に記入されている双方向の矢印に関しては、後述する知識構造指標の算出法において説明する。

	状況 1	状況 2	～	状況 9
↑ ルール対 1	← 1	5	～	2 →
ルール対 2	4	3	～	1
～	～	～	～	～
↓ ルール対 8	2	3	～	5

Figure 2 状況評価により得られるデータ行列の例

Table 5 社会的ルール対尺度項目

1	相手に関わろうとする	⇔	相手に関わろうとしない
2	自分で対処法を決める	⇔	相手と一緒に対処法を決める
3	他者に頼る	⇔	他者に頼らない
4	相手を信頼しない	⇔	相手を信頼する
5	自分の感情を押さえる	⇔	自分の感情をむき出しにする
6	自分の意見を主張する	⇔	自分の意見を抑制する
7	相手との関係を考慮する	⇔	相手との関係を考慮しない
8	相手の気持ちを考える	⇔	相手の気持ちを考えない

#### 4. 選択式社会的ルールリストからの項目選択

知識構造における質的側面としてのルール適切性の指標を測定するため、前節において作成された選択式社会的ルールリスト (Table 2 から Table 4 参照) からの項目選択が実施される。項目の選択は、記述された各状況で用いた社会的ルールに最も近い項目を1つずつ (全9項目)、状況の領域に対応するリストから選択するよう求める。その際、同じリスト項目は選択せず、2つの状況で用いたルールが重複する場合は、一方の状況には2番目に近いルール項目を選択するよう指示する。3領域の項目選択の順序は、葛藤状況の記述及び状況評定と対応するようカウンターバランスされている。以上の手続きにより選択された9項目を用いることにより、被調査者が有する社会的ルールの一般的な適切性が指標化される。指標の算出方法については、後述の知識構造指標の算出法において説明を行う。

#### 社会的ルールの知識構造簡易版測定法

本節では、前節の知識構造測定法の簡易版に関する解説を行う。前節で解説を行った知識構造測定法については、被調査者の回答に負担がかかることが確認されている (実施時間約90分)。従って、より簡便な測定を可能にするため、前節の知識構造測定法において最も複雑な手続きである「2. 社会的ルール対の作成」を改訂し、被調査者に社会的ルール対の作成を求めず、あらかじめ社会的ルール対を尺度として提示することで、測定法の簡易化を行った。なお、簡易版の知識構造測定法に関しては、社会的逸脱行為傾向 (逸脱行為の悪質性を軽視する程度とそれらの行為の実際の過去経験) との関連や、認知的歪曲 (事実にそぐわない、もしくは不正確な態度、思考、信念) との関連から、前節の知識構造測定法と同様の有効性が確認されている (吉澤・吉田, 2003b)。本節では、簡易版において変更された社会的ルール対尺度について、その作成手続きを解説する。

#### 社会的ルール対尺度の作成

社会的ルール対尺度は、選択式社会的ルールリストの作成を目的として実施した項目分析の結果を参考に作成した (Appendix 参照)。尺度の作成は、選択式社会的ルールリスト作成時と同様の2名により実施した。意見に相違が生じた場合は相談により調整された。作成の基準は、(a)領域に関わらず因子の意味をより高次のレベルで包括した社会的ルールを作成すること、(b)ルール対を作成するため反意の社会的ルールを作成しやすい内容にすること、(c)多様な状況で適用される可能性の高い社会的ルールを作成することの3つを採用した。以上の手続きにより、8つの社会的ルールが反意の社会的ルールと対となった8項目から成る社会的ルール対尺度が作成された (Table 5 参照)。簡易版の知識構造測定法においては、被調査者に社会的ルール対を作成させる手続きを省略し、社会的ルール対尺度を用いる。この変更点以外の手続きは、前節の知識構造測定法と同様である。

#### 社会的ルールの知識構造指標の算出

本節では、社会的ルールの知識構造指標の算出方法を解説する。知識構造測定法及び簡易版知識構造測定法の両測定法において、同様の指標が算出され、その算出方法もまったく同様である。以下に、知識構造の構造的側面であるルール独立性及びルール一貫性、質的側面であるルール適切性の順番で指標の算出方法を解説する。

##### 1. ルール独立性指標の算出

「分化」の側面に対応する指標として、本測定法ではルール独立性を算出する。社会的ルールどうしの非類似性を基準として指標化するため、類似性として全てのルール対どうしの相関係数を算出し、その逆数を基に数値化が行われる。Figure 2 のデータ行列に照らし合わせて説明すると、ルール独立性は実線の双方向の矢印にて示される8つのルール対どうしの全ての組み合わせの相関係数を基に算出される。1つのルール対における全状況

に対するデータの振る舞いが他のルール対と類似した振る舞いをすれば、それらルール対間の共変動である相関係数は高い値を示す。従って、相関係数の高さは状況への適用におけるルールどうしの類似性を示すため、その逆数を算出することでルールどうしの相互独立性としてのルール独立性指標が算出される。具体的な数値化においては、全状況をサンプルとした8ルール対間全ての組み合わせの相関係数を求め、各相関係数の値を2乗した平均値を1から減ずることで、ルール独立性 (inter-independence of rules index: IRI) として指標を算出する。なお本指標においては、相関係数を2乗することで比例尺度への変換がなされ、1から減ずることにより類似性の逆の意味を表す独立性への変換がなされる (非決定係数に対応する)。

ルール独立性は、 $m$  個のルール対について、状況をサンプルとした  $i$  番目と  $j$  番目のルール対間の相関係数を  $r_{ij}$  とし、(1)式により算出される (理論的値域:  $0 < IRI < 1$ )。

$$IRI_{(m)} = 1 - \frac{2}{m(m-1)} \sum_{1 \leq i < j \leq m} r_{ij}^2 \quad (1)$$

ルール独立性は8ルール対間の全般的非類似性を基準とし、値の高さはルールの相互独立性を示している。なお、先行研究におけるGTを用いた分化の指標としては、相関行列の主成分分析の第1固有値や相関行列における有意な相関の数といったものが算出されているが、なかでもBannister (1960) の強度得点 (intensity score: 相関係数の2乗和) は本測定法の指標とほぼ同一の得点であることが指摘される。

## 2. ルール一貫性指標の算出

「統合」の側面に対応する指標として、本測定法ではルール一貫性を算出する。社会的ルールを状況に対して適用する際の一貫性を基準として指標化するため、1ルール対により全状況を評定した値の標準偏差を算出し、その逆数を基に数値化が行われる。Figure 2 のデータ行列に照らし合わせて説明すると、ルール一貫性は破線の双方向の矢印にて示される1ルール対の状況を通じた値のばらつきの程度を基に算出されるが、このばらつきの程度が高いほどルールの適用が状況を通じて一貫していないことを示すと考えられる。従って、ルールを状況へ適用する際のばらつきである標準偏差の逆数を算出することで、ばらつきの逆の意味を表す数値としてのルール一貫性が算出されるといえる。具体的な数値化の際には、ルール対ごとに全状況を通じた標準偏差を求め、その値の8ルール対平均値を負に変換することで、ルール一貫性 (consistency of rules index: CRI) として指標を

算出する。

ルール一貫性は、 $m$  個のルール対について、 $i$  番目のルール対により全状況を評定した標準偏差を  $SD_i$  とし、(2)式により算出される (理論的値域:  $CRI \leq 0$ )。

$$CRI_m = -\frac{1}{m} \sum_{i=1}^m SD_i \quad (2)$$

ルール一貫性は、値が高いほど状況に対するルールの適用にばらつきがなく一貫しており、それらのルールが認知システムに統合されていることを示している。なお、GTを用いた統合度に関する指標は先行研究においても見解の相違があるが、本測定法は社会的ルールの知識構造を対象とした新たな測定法の試みであり、測定対象の相違から先行研究との知見の整合性を検討する必要性は低いと見られ、ルール一貫性を社会的ルールの「統合」に対応する指標として算出することとした。

## 3. ルール適切性指標の算出

知識構造の質的側面の指標として、社会的ルールの一般的適切性を示すルール適切性 (appropriateness of rules index: ARI) を算出する。ルール適切性の指標は、被調査者が各状況において用いたルールに最も近い項目として、選択式社会的ルールリストから選んだ社会的ルール項目に対し、該当項目に付与されている適切性得点を男女別に割り当てることにより算出される。ルール適切性得点は、被調査者が選択した社会的ルール9項目の適切性得点を平均した値を算出する (理論的値域:  $1 < ARI < 5$ )。

なお、知識構造の各指標は複雑であると考えられるため、前節までに示した測定内容との対応及び指標の算出法をTable 6にまとめた。さらに参考として、複数大学の学部生381名を対象に測定法を実施した結果から、測定法別の知識構造指標の平均値及び標準偏差をTable 7に示した。被調査者はそれぞれ、知識構造測定法については177名 (男性18名、女性159名; 平均年齢19.37歳,  $SD=1.72$ ) であり、簡易版知識構造測定法については204名 (男性71名、女性133名; 平均年齢19.30歳,  $SD=2.06$ ) であった。全ての調査は、講義時間内に、回答方法に関する指示を受けた後、無記名方式により実施された。実施時間は知識構造測定法に関しては約90分、簡易版知識構造測定法に関しては約60分を要しており、簡易版において実施時間が大幅に短縮されていることが示された。

## 知識構造測定法における問題と今後の課題

本論文では、筆者らの先行研究において開発された社会的ルールの知識構造測定法のマニュアルとしての位置

Table 6 各知識構造指標と測定内容との対応及び指標の算出法

知識構造指標	測定内容	算出法
ルール独立性	「2. 社会的ルール対の作成」において作成された8ルール対もしくは社会的ルール対尺度(簡易版)を用い、「3. ルール対による状況評定」において各葛藤状況で用いた社会的ルールを評定	ルール対により9状況を評定した値を基に、ルール対間の全ての組み合わせの相関係数を求め、それらの値を2乗した平均値を1から減ずることで算出
ルール一貫性	同上	ルール対により9状況を評定した値を基に、1ルール対の9状況を通じた標準偏差を求め、それらの値を8ルール対で平均した値を負に変換することで算出
ルール適切性	「4. 選択式社会的ルールリストからの項目選択」において、葛藤状況ごとにその状況で用いた社会的ルールに最も近いという基準で選択式社会的ルールリストから選択された項目	選択された項目にあらかじめ付与されている適切性得点の全項目平均値(9状況)

Table 7 知識構造指標の測定法別の平均値及び標準偏差

測定法	N	ルール独立性		ルール一貫性		ルール適切性	
		M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)
知識構造測定法	177	0.74	0.11	-1.05	0.23	3.76	0.16
簡易版知識構造測定法	204	0.79	0.07	-1.04	0.26	3.76	0.16

づけの下に、測定法の理論的背景及び手続きの詳細に関する解説を行った。最後に、知識構造測定法における問題点と今後の課題について述べることにする。

本測定法は、社会的ルールの知識構造を測定する新たな試みであり、先行研究においては社会的逸脱行為傾向を予測する上で一定の有効性が示されている(吉澤・吉田, 2002, 2003a, 2003b)。しかしその一方で、本測定指標が意味する内容の明確化や、測定法の信頼性、妥当性の検討は充分になされていない。従って、今後は社会的ルールの知識構造における、(a)指標が意味する内容の明確化及び、(b)測定妥当性の検討を目的とした研究を実施すべきであろう。(a)「指標が意味する内容の明確化」に関しては、道德性の認知的側面及び描画的な手法により測定された内容との関連による検討が有効であると考えられる。道德性の認知的側面に関する研究では、道德的推論と問題行動や非行との関連が検討されており、概ね両者の間に負の関連が見出されている(e.g., Blasi, 1980)。本論文の測定対象である社会的ルールの知識構造と道德性推論は、共に問題行動に関連する認知的側面を対象としている。そのため、両者の関連を検討することにより、知識構造の測定内容が問題行動と関連する認知的指標としての側面から明確化されると考えられる。

描画的な手法を用いた指標内容の明確化に関しては、階層的概念地図法を参考とした手法による検討が有効で

であろう。階層的概念地図による測定では、社会的ルールどうしの階層的な関連の検討が可能である。階層的概念地図は、概念及びそれらをつなぐ命題を重視し、概念どうしの上下関係をグラフとして描かせることによって、知識表象の外化を試みる方法である(Kellogg, 1994)。階層的概念地図を用いた測定法により、社会的ルールどうしの関係や階層的な上位レベルにおける関係をどのように認識しているかを把握できると考えられ、より構造的な側面から測定内容が明確にされると考えられる。また、冒頭で述べた認知スタイル研究における他概念の指標との関連も併せて検討すべきであろう。

(b)「測定妥当性の検討」に関しては、社会的ルールの知識構造と上記の指標内容の明確化に採用した他概念の指標との関連により検討が可能である。筆者らが以前実施した面接調査では、知識構造測定法における内容の妥当性は確認されているため、基準関連妥当性と構成的妥当性の検討を目的とした研究を中心に実施する必要がある。基準関連妥当性は、知識構造と道德性の認知的側面とで社会的逸脱行為の予測率を比較する方法と、知識構造指標と他の研究における知識構造の構造的側面に関する指標との関連を分析する方法により検討可能である。構成的妥当性は、知識構造指標と上記の他の研究における指標とを用いた多特性・多方法行列により検討する必要があるであろう。

さらに、先行研究における知識構造測定法の実施は主に大学生を対象として行われてきたが、今後は中高校生などの多様なサンプルを対象とした測定を行い、測定指標の一般化可能性を検討する必要がある。また、簡易版知識構造測定法でさえも、測定に必要な実施時間は約1時間を要するものであった。従って、多様なサンプルへの実施を可能にするためにも、今後は被調査者の社会的ルールを反映した手続きを残したまま、さらに実施時間を短縮する測定法を開発する必要があるだろう。

### 引用文献

- Argyle, M., & Henderson, M. 1985 *The anatomy of relationships and the rules and skills needed to manage them successfully*. London: Heinemann. (アーガイル, M.・ヘンダーソン, M. 吉森 護 (編訳) 1992 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Bannister, D. 1960 Conceptual structure in thought disordered schizophrenics. *Journal of Mental Science*, 106, 1230-1249.
- Bieri, J. 1955 Cognitive complexity-simplicity and predictive behavior. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 51, 263-268.
- Blasi, A. 1980 Bridging moral cognition and moral action: A critical review of the literature. *Psychological Bulletin*, 88, 1-45.
- Cacioppo, J.T., & Petty, R.E. 1982 The need for cognition. *Journal of Personality and Social Psychology*, 42, 116-131.
- Crick, N.R., & Dodge, K.A. 1994 A review and reformulation of social information - processing mechanisms in children's social adjustment. *Psychological Bulletin*, 115, 74-101.
- 警察庁生活安全局少年課 2003 少年非行等の概要 (平成15年上半期)
- Kellogg, R.T. 1994 *The psychology of writing*. New York: Oxford University Press.
- Kelly, G.A. 1955 *The psychology of personal construct*. New York: Norton.
- Krahe, B. 1990 *Situation cognition and coherence in personality: An individual-centred approach*. New York: Cambridge University Press.
- Kruglanski, A.W., & Webster, D.M. 1996 Motivated closing of the mind: Seizing and freezing. *Psychological Review*, 103, 263-268.
- Ohbuchi, K., & Kitanaka, T. 1991 Effectiveness of power strategies in interpersonal conflict among Japanese students. *Journal of Social Psychology*, 131, 791-805.
- Pettit, G.S., Dodge, K.A., & Brown, M.M. 1988 Early family experience, social problem solving patterns, and children's social competence. *Child Development*, 59, 107-120.
- 坂元 章 1988 認知的複雑性と社会的適応—分化性と統合性による認知システム類型化の試み— 心理学評論, 31, 480-507.
- Streufert, S., & Streufert, S.C. 1978 *Behavior in the complex environment*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Suedfeld, P., & Tetlock, P.E. 2001 Individual differences in information processing. In A. Tesser & N. Schwarz (Eds.), *Blackwell handbook of social psychology: Intraindividual processes* (Pp.284-304). Malden, Mass: Blackwell Publishers.
- Tesson, G., Lewko, J.H., & Bigelow, B.J. 1987 The social rules that children use in their interpersonal relations. In J.A. Meacham (Ed.), *Interpersonal relations: Family, peers, friends. Contributions to human development: Vol. 18* (Pp. 36-57). Tokyo: Karger.
- 遠山宜哉 1994 第6章 現代の犯罪 水田恵三 (編) 犯罪・非行の社会心理学 (Pp.163-185). プレーン出版
- 山口陽弘・久野雅樹 1994 認知的複雑性の測度に関する多面的検討 東京大学教育学部紀要, 34, 279-299.
- 吉澤寛之・吉田俊和 2002 社会的ルールの知識構造と社会的逸脱行為傾向との関連—知識構造の測定法を中心として— 日本社会心理学会第43回大会発表論文集, 302-303.
- 吉澤寛之・吉田俊和 2003a 社会的ルールの知識構造は社会的逸脱行為傾向を予測できるか?—認知的歪曲による媒介過程の検討— 日本社会心理学会第44回大会発表論文集, 224-225.
- 吉澤寛之・吉田俊和 2003b 社会的ルール知識構造と認知的歪曲および逸脱行為傾向との関連—簡易版知識構造測定法を用いた認知的歪曲による媒介過程の検討— 日本グループ・ダイナミックス学会第50回大会発表論文集, 120-121.

(2003年9月30日 受稿)

## ABSTRACT

### Measuring the Knowledge Structures on Social Rules

Hiroyuki YOSHIZAWA and Toshikazu YOSHIDA

The authors developed the knowledge structures measure on social rules, and its indices were found to predict socially delinquent behavior tendencies in previous research (Yoshizawa & Yoshida, 2002, 2003a, 2003b). However, elaboration and theoretical background of the knowledge structures measure have not been well documented. The authors compiled the present report as a manual for the knowledge structures measure, and described its measuring techniques and theoretical bases. Knowledge structures were assessed by the participants' means of applying social rules to interpersonal conflict situations based upon three indices: the inter-independence of social rules, the consistency of these rules, and their general appropriateness. Section 1 discussed the theoretical background and rationale for the knowledge structures measure. Section 2 introduced lists of social rules, which were used as a tool for evaluating their general appropriateness. Section 3 elaborated on the measuring techniques of the knowledge structures measure. Section 4 introduced the simplified version of the knowledge structures measure. Section 5 outlined the scoring method of the three indices. Section 6 discussed future improvement and development of the knowledge structures measure, along with some issues raised by it.

Key words: knowledge structures, social rules, measurement

## Appendix 社会的ルールリストの項目分析結果

## 友人ルールの項目リスト

項目番号	男生用		女性用		ル ー ル 項 目	負荷量
	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )		
52	3.88	(0.73)	3.91	(0.75)	相手に対し興味や関心を持つ	0.77
71	3.83	(0.70)	3.84	(0.71)	相手と関わりを持つようにする	0.75
69 *	3.95	(0.74)	4.21	(0.69)	相手とコミュニケーションをとる努力をする	0.74
53	3.98	(0.74)	4.06	(0.75)	相手を理解しようと努力する	0.73
72	3.76	(0.84)	3.88	(0.75)	幸せをともに分かち合う	0.72
68	3.96	(0.64)	4.12	(0.66)	相手に協力をする	0.71
56	3.90	(0.67)	4.00	(0.67)	相手のことを助ける	0.67
70	3.64	(0.76)	3.77	(0.70)	相手のことを守る	0.65
57	3.93	(0.68)	4.05	(0.70)	相手を受け入れる	0.64
67	3.74	(0.81)	3.93	(0.73)	話し合うための努力をする	0.64
33	3.71	(0.82)	3.82	(0.77)	互いのためにあきらめないで努力する	0.60
24	3.98	(0.65)	4.04	(0.71)	相手との仲をより良くする	0.59
51	3.77	(0.71)	3.94	(0.67)	問題の解決をスムーズにするために努力する	0.57
21	3.76	(0.83)	3.99	(0.63)	相手のことを尊重する	0.56
60	4.23	(0.68)	4.25	(0.68)	相手の話を聞く	0.54
46	3.72	(0.71)	3.76	(0.78)	相手とのつながりを持つように努力する	0.52
74	3.96	(0.75)	4.05	(0.72)	相手の良い面を積極的に認めようとする	0.51
40	4.17	(0.66)	4.41	(0.58)	感謝の気持ちを伝える	0.48
6	3.54	(0.86)	3.81	(0.82)	相手に自分のことを好きになってもらう	0.48
35 *	3.76	(0.84)	3.84	(0.75)	互いの意見や考えを調整する	0.48
64 *	3.89	(0.75)	4.04	(0.67)	誠実に接する	0.46
14	4.00	(0.69)	4.16	(0.73)	相手からの相談にはのる	0.42
48	3.77	(0.79)	4.04	(0.71)	バランスのとれた関係を保つ	0.37
47 *	2.95	(0.90)	3.13	(0.96)	相手の考えや意見にあわせる	0.75
19	2.99	(0.89)	3.16	(0.70)	自分から妥協する	0.72
26	2.80	(0.86)	2.71	(0.92)	常に遠慮するよう心がける	0.71
28	3.03	(0.92)	3.16	(0.99)	自分が我慢する	0.71
42	3.24	(0.91)	3.47	(0.86)	嫌なことを言われないようにする	0.68
13 *	3.06	(0.99)	3.13	(1.02)	自分の感情をおさえる	0.68
63	2.94	(0.79)	3.14	(0.83)	相手の考えや意見を優先させる	0.67
2	3.06	(0.97)	3.07	(1.02)	自分が言いたいことを我慢する	0.60
3	3.53	(1.01)	3.76	(0.93)	相手との争いやトラブルを避ける	0.60
49	3.19	(1.03)	3.28	(0.91)	あいそ良くふるまう	0.59
58	2.99	(0.87)	3.26	(0.82)	目立とうとしない	0.44
36	2.72	(0.88)	2.58	(0.77)	自分の優位な立場を守る	0.43
43	3.37	(0.82)	3.50	(0.77)	相手のことをほめる	0.42
34	3.84	(0.81)	3.87	(0.78)	自分の考えや意見を押しつけない	0.61
9	3.28	(0.83)	3.38	(0.64)	自慢話をしない	0.61
38	4.02	(0.83)	4.09	(0.70)	自分勝手にはならない	0.59
10 *	4.31	(0.75)	4.48	(0.64)	自分が悪い時はあやまる	0.55

社会的ルールの知識構造測定マニュアル

項目番号	男生用		女性用		ル ー ル 項 目	負荷量
	適切性得点		適切性得点			
	M	(SD)	M	(SD)		
25	3.81	(0.95)	3.88	(0.94)	相手を外見で判断しない	0.48
62	3.65	(0.83)	4.02	(0.75)	自分のことは自分でおこなう	0.80
30	3.53	(0.84)	3.80	(0.82)	自分のことは自分で守る	0.75
31*	2.54	(0.88)	2.46	(0.87)	相手が助けてくれることを期待する	-0.58
44	3.16	(0.91)	3.29	(0.87)	相手に頼らない	0.47
41	3.86	(0.80)	4.30	(0.71)	相手の害になることをしない	0.70
54*	3.87	(0.81)	4.14	(0.66)	相手が不快になることをしない	0.58
50	3.95	(0.79)	4.09	(0.71)	相手のことを無視しない	0.42
65	3.39	(0.83)	3.54	(0.68)	相手を警戒しない	0.67
45	3.45	(0.90)	3.59	(0.85)	相手のことをねたまない	0.58
16*	3.03	(0.99)	3.46	(0.91)	相手のことを否定しない	0.51
17	3.32	(0.99)	3.79	(0.91)	ウソをつかない	0.51
75	3.63	(0.88)	3.77	(1.06)	相手の悪口を言わない	0.42
39	3.62	(0.89)	3.95	(0.86)	世の中の法律を守る	0.78
37	3.97	(0.82)	4.33	(0.65)	一般的な社会のルールを守る	0.67
66*	3.76	(0.81)	4.12	(0.70)	相手に迷惑をかけない	0.38
4*	4.28	(0.74)	4.43	(0.57)	相手との信頼のある関係をつくる	0.69
18	3.88	(0.67)	4.26	(0.67)	より良い関係をつくり、その関係を続ける	0.56
5	4.13	(0.65)	4.50	(0.57)	相手のことを思いやる	0.52
11	2.52	(0.76)	2.65	(0.89)	グループで行動をしない	-0.65
23*	3.73	(0.77)	3.64	(0.77)	共通の話題を持つようにする	0.51
8	4.05	(0.83)	4.38	(0.64)	礼儀やマナーを守る	0.59
27	4.22	(0.77)	4.45	(0.70)	秘密を守る	0.39
15*	4.15	(0.76)	4.36	(0.71)	プライベートやプライバシーを守る	0.38
59	2.88	(1.04)	2.94	(0.89)	相手にぐちを言わない	0.76
22*	3.01	(0.89)	3.20	(0.93)	相手への敵意を隠す	0.58
61	4.23	(0.75)	4.15	(0.82)	金銭のことは互いにはっきりさせる	0.65
7*	3.94	(0.74)	4.05	(0.69)	許すべきことは許す	0.56
1*	3.88	(0.72)	3.99	(0.57)	場を和ませる努力をする	0.71
29*	3.15	(0.88)	3.55	(0.71)	相手に干渉しない	0.65
32	3.39	(0.91)	3.80	(0.81)	上下関係が悪くならないよう努力する	0.57
55*	3.34	(0.84)	3.29	(0.84)	自分の意見をストレートに伝える	0.81
73*	3.22	(0.94)	3.36	(0.85)	自分のことを相手にさらけ出す	0.65
20	4.27	(0.78)	4.49	(0.71)	時間や約束を守る	-0.36
12*	3.54	(0.84)	3.75	(0.73)	何か相手にしてもらったらお返しをする	0.64

note 1) 項目番号に添えてある\*印は選択式社会的ルールリストに採用されたルール項目を示す。  
 note 2) 負荷量の値は当該因子への負荷量を表し、ルール項目は因子ごとに破線で区切られている。



資 料

家族ルールの項目リスト

項目番号	男生用		女性用		ル ー ル 項 目	負荷量
	適切性得点 M	(SD)	適切性得点 M	(SD)		
46 *	3.99	(0.74)	4.19	(0.71)	家族のことを思いやる	0.80
60	3.82	(0.90)	4.16	(0.77)	家族への感謝の気持ちをあらわす	0.78
62	3.96	(0.83)	4.30	(0.75)	家族の互いの幸せを喜ぶ	0.78
35	3.96	(0.72)	4.27	(0.65)	互いの健康を気づかう	0.76
59	3.78	(0.84)	3.93	(0.77)	家族とのつながりを深める	0.74
68	3.96	(0.77)	4.16	(0.76)	家族との信頼のある関係をつくる	0.74
29 *	3.88	(0.77)	4.06	(0.79)	家族のことを助ける	0.72
20	3.89	(0.77)	4.18	(0.79)	家族を守る	0.64
36	3.88	(0.84)	4.08	(0.81)	親孝行をする	0.62
34	3.88	(0.79)	4.14	(0.71)	お互いに助け合う	0.62
55 *	3.82	(0.82)	4.04	(0.63)	お互いのことを理解する	0.61
30	3.66	(0.87)	3.88	(0.83)	家族のためになることをする	0.61
69	3.92	(0.82)	4.14	(0.83)	家族にとって危険なことをしない	0.61
45	3.73	(0.77)	3.95	(0.74)	家族のことを受け入れる	0.60
52	3.86	(0.82)	4.00	(0.76)	家族とコミュニケーションをとる努力をする	0.59
64 *	3.96	(0.71)	4.07	(0.71)	家族の意見を聞く	0.59
13	3.70	(0.91)	4.05	(0.80)	尊敬し、親しみを持って接する	0.59
65	3.89	(0.76)	3.91	(0.79)	快適な家庭環境をつくり、その環境を守る	0.55
54	3.50	(0.80)	3.72	(0.68)	お互いのことを敬う	0.55
33	3.90	(0.91)	3.94	(0.88)	家族と交流する機会を持つ	0.55
70 *	4.21	(0.80)	4.38	(0.73)	自分が悪い時はあやまる	0.48
61	3.96	(0.80)	4.09	(0.82)	家族内での約束を守る	0.47
31	3.83	(0.87)	3.83	(0.90)	家族のことを把握する	0.46
12	3.87	(0.85)	4.18	(0.72)	より良い関係をつくり、その関係を続ける	0.45
71	3.86	(0.75)	3.95	(0.91)	家族に不快なことはしない	0.44
6	3.52	(0.96)	3.74	(0.99)	家族に問題や悩みを相談する	0.42
21	3.30	(0.84)	3.51	(0.76)	家族と同じ気持ちを分かち合う	0.41
44 *	2.99	(0.95)	3.16	(0.84)	自分のことをさらけ出す	0.83
14	3.07	(1.00)	3.27	(1.03)	自分のことを家族にさらけ出す	0.81
63	3.06	(0.99)	3.35	(0.77)	自分をさらけ出すことにより信頼を得る	0.62
58	3.12	(0.90)	2.83	(0.77)	あまり自分のことを他者にさらけ出さない	-0.53
5	3.92	(0.87)	4.25	(0.78)	社会的な規則を守る	0.67
22	3.95	(0.78)	4.05	(0.80)	礼儀を守る	0.63
11	3.75	(0.94)	3.92	(0.90)	金銭のことは互いにはっきりさせる	0.47
10 *	3.96	(0.91)	4.23	(0.75)	自分の考えや意見を伝える	0.45
51	3.30	(0.81)	3.27	(0.91)	家族内の喧嘩を仲裁する	0.59
41	3.73	(0.72)	3.82	(0.77)	互いに協力し合うという意識を持つ	0.57
42	3.62	(0.85)	3.77	(0.82)	家族の中で協調性や社会性を学ぶ	0.47
32 *	3.62	(0.86)	3.71	(0.96)	家族内での仕事や役割を分担する	0.38
50	3.54	(0.80)	3.63	(0.74)	お互いの緊張を和らげるよう努力する	0.37
9	3.87	(0.89)	3.86	(0.96)	家族に迷惑をかけない	0.75

社会的ルールの知識構造測定マニュアル

項目番号	男生用		女性用		ルール項目	負荷量
	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )		
15 *	3.69	(0.94)	3.91	(0.87)	家族に心配をかけない	0.73
8	3.74	(0.83)	3.72	(0.82)	家族の負担を軽減する	0.52
43	3.21	(0.95)	3.46	(0.91)	ウソをつかない	0.74
66	3.77	(0.89)	3.91	(0.93)	家族をだまさない	0.69
28 *	2.83	(0.98)	3.05	(0.88)	隠しごとをしない	0.62
53 *	2.76	(0.96)	2.75	(0.89)	自分の感情をおさえる	0.69
56	3.47	(0.92)	3.56	(0.93)	家族の中で孤立しないようにする	0.46
3	2.86	(0.97)	2.98	(0.87)	親からほめられるように努力する	0.44
7	3.29	(1.05)	3.31	(1.04)	家族との争いやトラブルを避ける	0.41
39	3.47	(0.89)	3.64	(0.77)	自分の意見をストレートに伝える	-0.39
48 *	3.01	(1.00)	3.41	(0.93)	家族と一定の距離を保つ	0.79
47	3.36	(0.83)	3.55	(0.88)	お互いに譲り合う	0.65
23	3.12	(0.95)	3.44	(0.83)	相手に干渉しない	0.53
67	3.96	(0.80)	4.20	(0.75)	お互いのプライバシーを守る	0.41
4	3.72	(0.88)	3.82	(0.93)	家族内での秘密を守る	0.64
25 *	3.92	(0.74)	3.85	(0.96)	家族内での決まりごとを守る	0.63
16	3.63	(0.89)	3.80	(0.85)	家族内の弱い者を助ける	0.37
37	3.80	(0.83)	3.82	(0.97)	子供の養育やしつけをする	0.66
38 *	3.83	(0.73)	3.78	(0.89)	自分勝手にはならない	0.61
49 *	3.71	(0.78)	3.59	(0.82)	必要以上に助けすぎない	0.49
2	3.81	(0.92)	4.05	(0.88)	家族内で話し合う努力をする	0.47
18	2.88	(0.99)	3.01	(1.00)	互いの批判はしない	-0.47
24 *	3.70	(0.91)	3.91	(0.91)	互いに気をつかわない関係をつくる	0.75
26 *	3.66	(0.88)	3.61	(0.94)	他の家族と自分の家族を比較しない	0.75
27	3.85	(0.74)	4.00	(0.75)	家族との関係を安定させる	0.43
1 *	2.78	(0.99)	3.11	(0.90)	家族から助けられることを期待する	0.75
17	3.77	(0.89)	3.98	(0.88)	自分のことは自分でおこなう	-0.48
40 *	3.41	(0.84)	3.21	(0.89)	互いに損になることは避ける	0.73
19	3.43	(0.97)	3.48	(1.00)	見られたり知られたりしたくないことは隠す	0.34
57 *	3.23	(0.93)	3.59	(0.94)	互いに頼りあう	0.65

note 1) 項目番号に添えてある\*印は選択式社会的ルールリストに採用されたルール項目を示す。

note 2) 負荷量の値は当該因子への負荷量を表し、ルール項目は因子ごとに破線で区切られている。

社会ルールの項目リスト

項目番号	男生用		女性用		ル ー ル 項 目	負荷量
	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )	適切性得点 <i>M</i>	( <i>SD</i> )		
41	3.76	(0.74)	3.90	(0.72)	他者を不安にさせない	0.75
55	3.93	(0.76)	4.08	(0.61)	互いを理解しあう	0.73
57	3.93	(0.71)	4.16	(0.55)	より良い関係をつくり、その関係を続ける	0.66
12	4.08	(0.67)	4.16	(0.60)	他者と信頼のある関係をつくる	0.64
36 *	3.92	(0.78)	4.18	(0.58)	他者と譲り合いの気持ちを持つ	0.59
35	3.74	(0.73)	3.97	(0.67)	他者に負担をかけない	0.58
59	4.02	(0.74)	4.25	(0.62)	思いやりの心を持つ	0.57
40	3.65	(0.72)	3.86	(0.71)	他者に喜びを与える	0.56
27	3.91	(0.70)	4.03	(0.61)	他者に損失や害を与える行動をしない	0.55
18	4.15	(0.66)	4.09	(0.67)	他者に不信感を与えない	0.55
56	3.86	(0.67)	3.93	(0.65)	社会が上手く機能することを配慮した行動をとる	0.54
47 *	3.92	(0.73)	3.88	(0.71)	他者のことを考えながら行動する	0.54
60	3.86	(0.74)	4.13	(0.60)	他者に協力する	0.54
62	3.96	(0.73)	4.08	(0.68)	公平さや平等を尊重する	0.52
61	3.95	(0.66)	4.05	(0.60)	より良い社会生活を続ける	0.51
54	4.01	(0.67)	4.15	(0.74)	社会の一員としての意識を持つ	0.50
11	3.99	(0.80)	4.02	(0.68)	他者や社会に不快な思いをさせない	0.50
48	4.27	(0.72)	4.15	(0.68)	裏切らない	0.49
19	4.17	(0.73)	4.24	(0.64)	他者に迷惑をかけない	0.49
14	3.87	(0.80)	3.94	(0.63)	他者に対し謙虚さを保つ	0.47
10	3.76	(0.75)	3.89	(0.75)	他者に好印象を与える	0.45
32	3.97	(0.70)	4.01	(0.67)	社会生活を守るための努力をする	0.45
13	3.68	(0.84)	3.58	(0.84)	他者に対して正直になる	0.42
68 *	3.93	(0.74)	3.96	(0.65)	社会における自分の役割をはたす	0.42
44	4.09	(0.65)	4.16	(0.72)	社会の中で責任感を持つ	0.39
53	4.39	(0.76)	4.39	(0.72)	時間を守る	0.73
45	4.45	(0.59)	4.48	(0.56)	約束を守る	0.68
4	4.48	(0.65)	4.52	(0.62)	ルールやマナーを守る	0.61
15	4.28	(0.75)	4.46	(0.65)	時間、場、状況 (TPO) をわきまえた行動をする	0.54
70	4.25	(0.75)	4.43	(0.69)	秘密を守る	0.45
46 *	2.54	(0.94)	2.68	(0.93)	他者から助けられることを期待する	-0.43
7	4.15	(0.71)	4.15	(0.70)	自分の言動には気をつける	0.38
49	3.99	(0.87)	4.10	(0.72)	環境を美しくし、守る	0.71
37	3.99	(0.75)	4.20	(0.75)	公共の物をそまつに扱わない	0.63
34	4.03	(0.78)	4.11	(0.68)	社会的な秩序、治安、平和を守る	0.63
50	4.20	(0.76)	4.30	(0.62)	社会の常識やモラルを守る	0.60
22 *	3.67	(0.84)	3.82	(0.77)	社会的な弱者などを助ける	0.44
8 *	3.67	(0.86)	3.66	(0.71)	社会にとって不利益になるようなことをしない	0.76
9	3.59	(0.92)	3.54	(0.78)	社会全体を意識する	0.63
6	3.80	(0.78)	3.83	(0.71)	社会に役立つことをする	0.53
3	3.83	(0.74)	4.01	(0.59)	他者を受け入れる	0.70

社会的ルールの知識構造測定マニュアル

項目番号	男生用		女性用		ルール項目	負荷量
	適切性得点		適切性得点			
	M	(SD)	M	(SD)		
2 *	4.09	(0.69)	4.23	(0.57)	他者とのコミュニケーションを心がける	0.66
5	3.90	(0.73)	3.94	(0.69)	他者とのネットワークを広げる	0.58
1	4.39	(0.60)	4.48	(0.60)	他者のプライバシーを守る	0.51
17 *	4.03	(0.75)	4.03	(0.75)	自分の感情をコントロールする	0.31
29	3.86	(0.82)	4.30	(0.74)	笑顔で接する	0.62
30	3.97	(0.68)	4.22	(0.58)	他者に感謝をする	0.62
33 *	4.26	(0.75)	4.47	(0.60)	自分が悪い事をしたらあやまる	0.54
31	4.11	(0.76)	4.16	(0.65)	自分勝手にはならない	0.37
26 *	3.40	(0.97)	3.31	(0.91)	自分が言いたいことは言う	0.83
39	3.15	(0.94)	3.18	(0.89)	自分の意志をストレートに伝える	0.77
66	3.86	(0.92)	4.00	(0.78)	自分らしさを大事にする	0.65
64 *	3.39	(0.94)	3.38	(0.84)	周囲にあわせる	0.74
65	3.57	(0.87)	3.58	(0.80)	社会にあわせる努力する	0.57
42	3.21	(1.00)	3.49	(0.79)	妥協をする	0.45
38 *	2.84	(0.90)	2.91	(0.90)	自分のことを他者にさらけ出す	-0.64
16	3.44	(0.89)	3.25	(0.79)	あまり自分のことを他者にさらけ出さない	0.63
58	3.10	(0.84)	3.15	(0.78)	期待をしたり, されたりしない	0.80
51 *	3.22	(0.86)	3.13	(0.78)	他者を警戒する	0.61
43	3.84	(0.82)	3.85	(0.71)	争いやトラブルを避ける	0.32
23 *	2.85	(0.89)	2.59	(0.84)	他者に恩を売る	0.75
20 *	3.45	(0.89)	3.06	(0.92)	正しくない行いに対して罰を加える	0.57
25 *	3.69	(0.86)	3.61	(0.92)	場合によってはウソを利用する	0.79
52	3.57	(0.99)	3.81	(0.92)	ウソをつかない	-0.44
24 *	3.87	(0.72)	3.99	(0.67)	自分の行動について反省するよう心がける	0.60
69 *	4.07	(0.78)	4.24	(0.63)	目上の人などに敬意をあらわす	0.63
28 *	3.83	(0.81)	3.80	(0.75)	公私混同しない	0.71
21 *	3.70	(0.80)	3.85	(0.77)	社会的に孤立することを避ける	0.67
63	3.72	(0.82)	3.67	(0.84)	社会的な信用や地位を得る	0.48
67	2.86	(0.91)	2.52	(0.93)	良いことは隠れてする	0.73

note 1) 項目番号に添えてある\*印は選択式社会的ルールリストに採用されたルール項目を示す。

note 2) 負荷量の値は当該因子への負荷量を表し, ルール項目は因子ごとに破線で区切られている。